

プレスリリース

平成17年4月12日
内閣府食品安全委員会事務局

「食品に関するリスクコミュニケーション(東京) - 現在の食品媒介感染症に関する知見と米国における薬剤耐性菌対策(仮題) - 」の開催と参加者の募集について(お知らせ)

標記の意見交換会について、別紙のとおり参加者の募集を本日より行いますのでお知らせ致します。

【本件照会先】

内閣府食品安全委員会事務局
勧告広報課 大津・杉江
電話：03-5251-9208/9209

(別紙)

平成17年4月12日
内閣府食品安全委員会事務局

「食品に関するリスクコミュニケーション(東京) - 現在の食品媒介感染症に関する知見と米国における薬剤耐性菌対策(仮題) - 」の開催と参加者の募集について(お知らせ)

食品安全委員会では、平成15年7月の発足以来、リスク分析手法に基づき、食品等に対するリスク評価を行うとともに、評価結果についてリスクコミュニケーションを行って皆様からご意見を頂いてきたところです。

近年、食生活が豊かになる一方、食品に関するリスクも複雑化し多様化する傾向にあります。特に、食品を媒介とした感染症や薬剤耐性菌の問題などについては、さらに適切なサーベイランスシステム等の体制整備が重要な課題となっています。

今回、食品安全委員会では、厚生労働省や農林水産省とも協力して、米国の新興感染症プログラムや耐性菌監視システムの責任者として活躍されているフレデリック・アンギュロ博士を招聘し、講演会を開催することとなりましたので、お知らせいたします。

1. 開催日時：平成17年5月11日(水) 13時30分～16時00分
2. 会場：東京ウィメンズプラザ(別紙地図参照)
住所：東京都渋谷区神宮前5-53-67
3. 主催：食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省
4. 参加者：約200名
5. テーマ：現在の食品媒介感染症に関する知見と米国における薬剤耐性菌対策(仮題)
6. プログラム(予定)[日英同時通訳有]

講演 「現在の食品媒介感染症に関する知見と米国における薬剤耐性菌対策」(仮題)

フレデリック・アンギュロ 博士 (米国疾病管理予防センター)

意見交換

7. 参加者の募集

参加をご希望の方は、平成17年5月9日(月)正午までに、別添のとおり、氏名、住所、電話番号、FAX番号、勤務先、をご記入の上、インターネット、FAX、ハガキで下記にお申し込みください。(ハガキによる申込みの場合は官製ハガキで5月6日(金)必着)。希望者が多い場合は、先着200名で締め切らせていただく場合がありますのでご了承下さい(参加費無料)。

また、参加の可否については、FAX又はハガキにより連絡いたしますので、参加できる旨のFAX又はハガキを受け取った方は、意見交換会当日、会場受付で、当該FAX又はハガキ、及び身分を証明するものをご提示ください。

なお、氏名・住所等は、当方から必要に応じてご連絡させていただく場合や会場での参加確認のため、また、どのような立場の方々をご参加されているのかを把握するためにお尋ねしております。

(申込み先について)

・FAXでのご応募：048-718-1151

・ハガキでのご応募：

〒344-0112 埼玉県北葛飾郡庄和町西金野井1745

「食品に関するリスクコミュニケーション(東京)」事務局

・インターネットでのご応募：食品安全委員会ホームページ(<http://www.fsc.go.jp>)
で4月12日(火)18:00より受付開始

(受付：<https://www.at-conference.jp/risk/index.asp?code=RC20050511B>)

問い合わせ先：「食品に関するリスクコミュニケーション(東京)」事務局

TEL 03-3263-8695

(受付時間 9:30~17:00 土日・祝日を除く)

【報道関係者の皆様へ】

・意見交換会は公開といたします(カメラ撮り可)。

・参加を希望される報道関係者につきましては、会場設営の都合上、申込み期限(平成17年5月9日(月)正午)までに、「食品に関するリスクコミュニケーション(東京)参加希望」を明記し、会社名、氏名、TVカメラの有無、電話番号、参加人数を記入(様式自由)の上、上記申込み先までご連絡ください。

(別添)

「食品に関するリスクコミュニケーション（東京）」
- 現在の食品媒介感染症に関する知見と米国における薬剤耐性菌対策（仮題） -
(平成17年5月11日開催)

参加申込書

フリガナ 氏名	住所（都道府県から）	Tel番号 <small>(市外番号から)</small> Fax番号	フリガナ 勤務先 所属団体等
	勤務先 自宅 〒_____ - _____	Tel ----- Fax	
	勤務先 自宅 〒_____ - _____	Tel ----- Fax	
	勤務先 自宅 〒_____ - _____	Tel ----- Fax	

ハガキでのお知らせに間に合わない場合、Faxでのお知らせとなりますので Fax番号のある方は必ずご記入願います。

・該当する番号にひとつだけ を付けて下さい。

- 1) 消費者団体 2) 無職（主婦、学生等） 3) 生産者
- 4) 食品関連事業者（加工、流通、販売等） 5) マスコミ関係者
- 6) 行政関係者 7) 研究・教育機関（食品関係）
- 8) その他（具体的にご記入下さい： _____)

なお、この用紙は、平成17年5月9日（月）正午までに提出いただきますようお願いいたします。

FAX送信先： 「食品に関するリスクコミュニケーション（東京）」事務局
048 - 718 - 1151

(参考)

<フレデリック・アンギュロ博士 (Dr. Frederick James Angulo) プロフィール>

フレデリック・アンギュロ博士はカリフォルニア大学ディビス校で獣医学部を卒業後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校で博士号を取得し、1993年より米国疾病管理予防センター (CDC) に勤務し、1995年から、疫学の専門家として、CDCの感染症センター 細菌および真菌症部門 食品由来下痢性疾患部 (Foodborne and Diarrheal Diseases Branch, Division of Bacterial and Mycotic Diseases, National Center for Infectious Diseases) において、FoodNetならびに薬剤耐性菌監視システム (NARMS) の責任者に就任している。

この実績により、WHOあるいはFAO/WHO/OIEによる多くの専門家会議に招聘され、それら国際機関による報告書や勧告の作成に携わってきた。主なものには、WHO Global Salm-Surv (サルモネラを始めとする食品由来病原体のラボと疫学チームの国際ネットワーク) の運営、下痢症患者数の実態把握のための国際会議、薬剤耐性菌対策のための国際会議、食品由来感染症サーベイランスシステムのための国際会議等がある。2004年3月からは、下痢症患者数の実態把握のためのアクティブサーベイランスに取り組む各国の間での情報交換を目的としたリストサーブを立ち上げ、国立医薬品食品衛生研究所のプロジェクトにおいて助言を行っている。

CDC (Center for Disease Control and Prevention)

米国健康福祉省 (Department of Health and Human Services) に設置された12の機関の一つ。疾病の防止・制御を図ることにより健康な生活を促進することを目的として、健康や安全性についての信頼できる情報の提供、州政府や民間企業などとの連携強化を図る。<http://www.cdc.gov/>

FoodNet (The Foodborne Diseases Active Surveillance Network)

米国CDCの新興感染症プログラム (EIP: Emerging Infections Program) における食品由来感染症サーベイランスシステム。食品由来感染症のより正確な実態把握、発生動向調査、原因食品や感染経路の特定等を目的として1995年に始動。住民、医療機関、検査機関への積極的調査、散発事例を対象とした症例対照研究などから成り立っている。同様のシステムはイギリス、オーストラリア、オランダ、アイルランドなど、十数ヶ国でも実施されている。<http://www.cdc.gov/foodnet/>

NARMS (National Antimicrobial Resistance Monitoring System)

全米耐性菌監視システム。FoodNet同様、CDCのEIPプログラムとして1996年に始動。CDC、USDA、FDAが協力し、薬剤耐性菌の監視、調査、疫学調査を行っている。

<http://www.cdc.gov/narms/>